

千葉 桂子 (福島大)

目的 スノーボードは、近年若者を中心に楽しまれ、長野オリンピックにおいても正式種目に制定されるなど、注目を集めている。スノーボードはスキーと同じ雪上での種目でありながら、競技方法によっては回転の高さ、バランス、リズムなど身体の動きに焦点をあてた審査が行われる。選手の着用するウェアの色彩は、見る者に与える印象に何かしら影響もおよぼすと思われる。そこで本研究では、スノーボードウェアおよびスキーウェアの色彩のイメージについて検討することを目的とした。

方法 調査は質問紙法により、1997年12月に実施した。調査対象者は大学生で男子14名、女子16名の計30名であった。調査方法は、スノーボード2種類およびスキー1種類のポーズの異なるイラストをパソコンに取り込み、色を黒、白、赤、黄、水色に変化させた15枚のOHPフィルムをランダムに表示させ、各々のイメージについて13形容詞対を用いてSD法による5段階評定を行わせた。評定結果によりイメージプロフィールを求め、さらに因子分析を行った。

結果 各色のイメージプロフィールを求めたところ、黒、赤、水色においては、スノーボードとスキーとは似た傾向を示したが、黄についてはスキーとスノーボードでは異なる傾向が、認められた。白においては、特にスノーボードのジャンプがスキーよりも軽く、目立たず、ぼんやりしたイメージの強いことがわかった。因子分析の結果、黒のみ3種類すべてにおいて第1因子は評価性、第2因子は力量性の因子が抽出された。他の色については、3種類とも異なった因子構造であることが明らかになった。